

1. 会議名 南部町子ども・子育て会議（令和元年度 第2回）	
2. 日時 令和元年10月2日（水）19時00分から20時15分	
3. 場所 健康管理センターすこやか1階トレーニング室	
4. 出席者 <委員>南部町子ども・子育て会議委員8名（欠席2名） <事務局>町長、子育て支援課課長、子育て支援課課長補佐2名、子育て支援課主幹2名、教育委員会事務局総務・学校教育課課長	
5. 次第 1 開会 2 町長挨拶 3 報告事項 (1) 幼児教育・保育の無償化について 4 議事 (1) 第2期南部町子ども・子育て支援事業計画（骨子案）について (2) 第2期南部町子ども・子育て支援事業計画（案）について (3) その他 5 閉会	
6. 配布資料 <事前配布> 会議次第 資料1：幼児教育・保育の無償化について 資料2：第2期南部町子ども・子育て支援事業計画（骨子案） 資料3：第2期南部町子ども・子育て支援事業計画（案） 補足資料1：子ども家庭総合支援拠点について 補足資料2：南部町子どもの広場整備計画 <当日配布> オレンジリボンたすきリレー	
7. 会議内容	
子育て支援課課長	1 開会
町長	2 町長挨拶 10月1日から消費税が増税となり全世代型社会保障制度が始まる。また、3歳～5歳児の無償化も始まったが、副食費について負担が生じるなどの混乱がある。福祉は、生活困窮者を支援し、収入のある方は負担をしていただくということが原理原則だと思う。そうしなければ格差社会が広がってしまう。 厚生労働省に0歳～2歳の保育の量の確保の拡大ではなく、北欧のように在宅でしっかりと育児しつつ、キャリアを継続できる社会の仕組みにすることが必要と伝えているが、労働力が減って

	<p>いる中で緊急の手立てとして0歳から2歳児の預かりを拡大する対応とのこと。今後労働者は70歳まで働く時代となる。20年後に労働者が1千万人減る対策、少子化だが南部町に育つ子たちを大切に育て、いずれ南部町に帰ってきてほしい。</p> <p>本日は原案をお示ししているの、活発な議論をお願いしたい。</p>
子育て支援課長 (報告)	<p>3 報告事項</p> <p>幼児教育・保育の無償化について(資料1)、南部町の状況について説明</p>
子育て支援課長 事務局(説明)	<p>4 議事</p> <p>議事についてはホームページ等で会議録を公開することになっているのでご了解いただきたい。</p> <p>ここからの議事の進行は会長にお願いする。</p> <p>(1) 第2期南部町子ども・子育て支援事業計画(骨子案)について(資料2)について説明</p> <p>骨子案にあるように、子ども・子育て支援法に基づき、子ども・子育て支援の総合的な計画として、「南部町子ども・子育て支援事業計画」を見直し、第2期計画を策定することとなっており、これまでの計画の成果と課題を踏まえながら見直しを行い、方向性や具体的な施策と事業を示すものとなっている。</p> <p>第2期計画について、第1期を踏襲しているが、目指す姿について一部変更をした。</p> <p>また、報告となるが7月に子育てに関する座談会を2回予定していたが、参加者が少なかったため中止させてもらった。計画策定にあたり昨年度末にアンケートを実施し回答していただいたこと、平成29年度から子ども広場整備のための座談会を計9回実施していたことから参加者が集まらなかったと考えている。</p>
会長	<p>今の説明について、質問等はあるか。</p> <p><全会一致で承認></p>
事務局(説明)	<p>(2) 第2期南部町子ども・子育て支援事業計画(案)について(資料3)について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補足資料1(子ども家庭総合支援拠点) ・補足資料2(南部町子どもの広場整備計画) <p>第1期計画と比較しながら、第2期の計画案に沿って説明する。網掛け部分が修正箇所になる。</p>

	<p>主な見直し内容として、子ども・子育て支援の課題（地域子育て支援拠点、待機児童、子どもの遊び場、保育園の老朽化対策等）、具体的な施策（子育て交流室あいあい、ネットやSNS等の関わり方の指導、コミュニティ・スクール、子どもの広場整備計画、防災教育の推進、子ども家庭総合支援拠点の設置等）、児童人口推計、幼児教育・保育や地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保内容、保育園のあり方について説明。</p>
会長	<p>第1期をもとに課題や変更点を修正しているとのことだが、今の説明について、質問等はあるか。</p>
委員	<p>P. 14 ファミリー・サポート・センターについて、アンケート結果から援助会員が少ないため利用希望者が少ないということだったのか。</p>
事務局	<p>一時預かり事業が始まり、ファミリー・サポート・センターより使い勝手が良いということで減ったと考えている。それまでは利用が多かったが、一時預かりに流れていった。ファミリー・サポート・センターは地域の助け合いによる子育て支援の根幹であり、やり方を見直し援助会員を増やしていきたい。</p>
町長	<p>制度の問題はないのか。値段設定は適正なのか。預かる側の責任を考えると単価が低いという話を聞いたことがある。根本から制度を見直さなければならないのでは。単価は現在いくらか。</p>
事務局	<p>500円/1時間である。</p>
会長	<p>他の家の子を預かるとなると責任が生じるため、違ったインセンティブも必要かもしれない。検討した方がよい。援助会員を増やすことも必要なのでメリットを含め啓発しないといけない。ただ、利用数のみを見るのではなく、バランスが必要では。</p>
委員	<p>幼児教育という文言が多数出てくるが、乳児を入れるべきところがあるのではないか。</p>
事務局	<p>幼児は教育、乳児は保育という整理をしている。</p>
委員	<p>保育園は0歳児から預かる。教育基本計画では乳幼児期としていっているので、整合性をとるためにも乳幼児期と記載するよう検討してほしい。</p>
会長	<p>5年間の計画なので誤解がないよう、0歳児から含まれるなら乳児を入れる。ページによっては「幼児期の」「乳幼児の」という表記もあるので再度文言の確認を。</p>
町長	<p>P. 4の人数について「自然増減はやや減少」という記載があるが、どこをみてそのような判断をしたのか。また社会動態は減少傾向。平成30年に転出が大幅に増えている。今後はどうなる</p>

<p>事務局（説明）</p> <p>町長</p> <p>会長</p> <p>町長</p> <p>会長</p> <p>事務局 会長</p> <p>事務局</p> <p>子育て支援課長</p>	<p>のか、丁寧に見ていかないといけない。</p> <p>P. 39には、コーホート法による人口推計を出しているが、令和2年度の0歳は52人、令和3年度にはその子たちが1歳になり59人になるということか。</p> <p>転入を含みそのように推計している。</p> <p>これをもとに将来の保育ニーズを見ていくので推計は丁寧に合わなければならない。本当にこのような大幅な減少となっていくのか。</p> <p>西伯小学校の児童数も毎年20人減っている。5年前は全ての学年が3クラスだったものが今は2クラスになっている。目に見える以上に減っている感じはある。これを止めるためには、子どもに優しいまちづくりを進めないといけない。南部町で安心して子育てしてもらえるよう、今以上に打ち出さないといけない。</p> <p>数字については、一人歩きする可能性がある。減る前提の中で、その対策としてこういうことを考えているということがあれば示してほしい。こういう手立てをしているというような努力が必要。若者が残るための工夫ができないか。</p> <p>まち全体の人口維持は難しいが、子どもに関しては小さな団地等でもできれば数字は大きく変わってくる。推計で低く見ること子ども入所数と合わなくなる心配もある。保育量の分析をする際は注意してほしい。</p> <p>文言と同じで数字はインパクトがある。注意してやってほしい。委員も資料を見ていただき、おかしいところがあれば事務局へ伝えてほしい。</p> <p>その他なにかあるか。</p> <p>オレンジリボンたすきリレーについて説明（当日資料）</p> <p>イベントとして実施するという事だと思うが、児童虐待防止については継続して啓発しないとけない。色々なニュースがある。地域みんなの力で防げる、オレンジリボンたすきリレーを通じて一過性ではなく啓発してほしい。</p> <p>その他事務局からあるか</p> <p>ない。</p>
<p>5</p>	<p>閉会</p>